

令和 5 年度 吉田町地域公共交通協議会報告

期 日	事 業 名	事 業 内 容
令和 5 年 5 月 27 日 (土)	公共交通に関する 高校生ミーティング	・「(仮) 新しい交通」の使い方について ワークショップ ・家族への「(仮) 新しい交通」に関する アンケート
令和 5 年 7 月 3 日 (月)	第 1 回協議会	【報告】 ・令和 4 年度事業報告・収支報告について ・交通拠点の整備について 【議事】 ・令和 5 年度事業計画・収支予算について ・「(仮) 新しい交通」の実証実験について ・共創モデル実証プロジェクトについて
令和 5 年 7 月 8 日 (土) 令和 5 年 7 月 9 日 (日) 令和 5 年 7 月 11 日 (火) 令和 5 年 7 月 13 日 (木) 令和 5 年 7 月 14 日 (金)	「(仮) 新しい交通」 住宅地停留所仮設定	町内 4 地区（住吉区、川尻区、片岡区、北区）の町内会長、民生委員児童委員協議会による「(仮) 新しい交通」の住宅地停留所仮設定
令和 5 年 8 月 18 日 (金)	第 2 回協議会	【議事】 ・“ぎゅっと” カーよしだの運行計画について ・オンデマンド型乗合タクシーの運行に関する協 定について 【報告】 ・共創モデル実証プロジェクトについて
令和 6 年 1 月 16 日 (火)	第 3 回協議会	【議事】 ・地域間幹線系統に関する事業評価について ・地域間幹線系統に係る国及び県補助路線協調補 助について ・吉田町地域公共交通計画の追記について 【報告】 ・“ぎゅっと” カーよしだの利用実績について
令和 6 年 3 月 28 日 (木)	第 4 回協議会	【報告】 ・令和 5 年度“ぎゅっと” カーよしだの報告につ いて 【議事】 ・令和 6 年度“ぎゅっと” カーよしだについて

令和5年度 吉田町地域公共交通協議会 収支決算

単位：円

【収入の部】

款	項	目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (A－B)	備 考
1	負担金	1 負担金	560,000	162,052	397,948	町負担金
2	補助金	1 補助金	0	0	0	
3	繰越金	1 繰越金	533,947	533,947	0	
4	諸収入	1 諸収入	0	4	△ 4	預金利息
			1,093,947	696,003	397,944	

単位：円

【支出の部】

款	項	目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (A－B)	備 考
1	1 会議費	1 会議費	250,000	145,000	105,000	委員謝金
	2 事務費	1 事務費	130,000	3,192	126,808	飲料代 視察土産代
2	事業費	1 事業費	713,947	13,860	700,087	講師交通費・宿泊費
3	返還金	1 返還金	0	0	0	
4	予備費	1 予備費	0	0	0	
			1,093,947	162,052	931,895	

収入金額 696,003 円

支出金額 162,052 円

差引残額 533,951 円（翌年度に繰越）

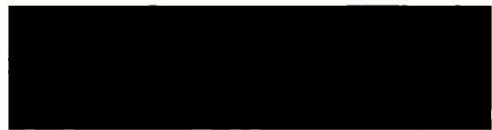
監 査 報 告 書

令和5年度吉田町地域公共交通協議会収支決算書について、令和6年5月20日に監査した結果、帳簿、関係書類等いずれも正確かつ適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

令和6年5月28日

吉田町地域公共交通協議会

監査委員



「“ぎゅっと”カーよしだ」
実証実験に関するアンケート
調査結果
＜サマリー＞

2024年5月

名古屋大学 大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター
地域戦略研究室

調査概要

1. 調査目的

- 実証実験【2023.10.2（月）～2023.2.15（木）】の「“ぎゅっと”カーよしだ」登録者の利用状況と利用/非利用理由、及び満足・不満足点、今後の利用意向や改善要望を確認し、実証実験の効果検証を行う。
- 「“ぎゅっと”カーよしだ」の必要性を確認し、導入への意向を明らかにする。

2. 調査方法

- 郵送調査とインターネット調査を併用する
- 配布方法 郵送
（会員登録者へ吉田町から郵送）
- 回収方法 郵送の場合は、返信用封筒を用いた郵送
- 回答方法 自記式アンケート

3. 調査日時

- 2024年2月16日(金)～ 3月4日(月)

4. 調査対象者

- 「“ぎゅっと”カーよしだ」に会員登録された方
- ※実証実験期間中のデマンド交通の利用有無は不問。
登録者全員の方を対象にアンケートを実施

5. 配布数／回収数

- 配布数：524S
- 有効回収数：299S
- 回収率：57.1%

6. 「不明」回答の扱いについて

- 今回のアンケートは、高齢者に自記式で回答してもらったため、「不明」回答がみられた。このため本報告書内の構成比は、すべて「不明」を除いて算出したものを用いた。

“ぎゅっと”カーよしだ（以下、“ぎゅっと”カー）の利用率と利用／非利用理由

- 回答者のうち、“ぎゅっと”カーを利用した人は42%。利用した人は、自家用車がなく、普段の移動手段が公共交通と自転車の人が多い。「吉田町内の移動にとっても不便を感じている」人の60%が利用している。
- 利用した人の回数では、一番多かったのが「1回」で29%。次に多いのは「5～10回」で20%、「11回以上」も6%、5回以上利用した人は26%。お試し利用者とヘビーユーザーの二極化が見られる。
- 非利用理由は、「自家用車があるから」が54%と最も高い。次に「帰り時間を事前に決めるのが難しかった」(32%)、続いて約20%で「家族が外出先に連れて行ってくれた」「予約が面倒だった」。この3つが主な非利用理由。
- 非利用理由の自由回答では、「まだ車の運転できる」「自転車で間に合った」など、利用機会がないことを挙げる意見が多い。また、帰りの予約のタイミングの難しさ、停留所が遠いことやわかりにくいという意見が散見された。
- 利用理由は、「タクシー料金より安い」が87%と突出して高い。次いで「電話で予約できる」が68%。以下、約60%で「目的地へ乗り換えなしで行ける」「希望の時間帯に移動できる」「家の近くから乗れる」が続く。
- 自家用車の保有状況は、「ある」が49%で約半数。自家用車を手放したのは80代が多く54%と過半数を超える。80代になると保有は23～33%と急激に減少する。“ぎゅっと”カーの利用者の保有は33%で、「5回以上」の利用者の保有は18%。「普段の移動手段が高速バス・鉄道」では自家用車を保有しており、「タクシー」では保有していない傾向にある。
- 自家用車保有の有無が町内の移動の不便度には大きく影響している。「吉田町内の移動に不便を感じていない」人の72%が保有している。

会員登録に至る過程

- “ぎゅっと”カーの利用の仕方については、「よくわからなかった点はない」が56%と突出して高く、次いで「帰りの予約方法」が28%、「乗り降りできる場所や停留所」16%と続く。
- 認知経路は、「“ぎゅっと”カーの案内パンフレット」が60%が突出して高く、次に「知人・友人からの話し」で26%。以下、「“ぎゅっと”カーの説明会」、「公共施設(役所・はあとふる等)の職員からの話」、「吉田町の公式ホームページ」、「吉田町の公式LINE」が約2割で続く。
- 会員登録のきっかけは、「“ぎゅっと”カーの案内パンフレット」が54%と突出して高い。次に「知人・友人からの話し」で26%。以下、「“ぎゅっと”カーの説明会」、「公共施設(役所・はあとふる等)の職員からの話」、「家族・親族からの話」が約2割で続く。
会員登録のきっかけは認知経路と異なり、「家族・親族からの話」が影響を与えている。
年代別で傾向がわかれ、「70代」は、「“ぎゅっと”カーの説明会」が30～35%であるのに対し、「家族・親族からの話」が約10%と低い。一方、80代では「家族・親族からの話」が約30%と高い。

今後の“ぎゅっと”カー利用意向

- 今後(3-5年先)の利用意向は、「必ず利用する」が42%、「おそらく利用する」(47%)まで含めると89%になる。大半の会員が利用意向を示している。
年代別では、75歳～84歳の利用意向が高く、「必ず利用する」が50%。
“ぎゅっと”カーの利用別でみると、「利用者」は63%が「必ず利用する」と回答しており、「おそらく利用する」(28.6%)まで含めると、91%。利用回数が多いほど利用意向が高く、「5回以上」では80%が「必ず利用する」と回答している。「自家用車なし／送迎なし」人の利用意向は高く、「必ず利用する」が66%。
- 免許返納後の利用意向は、「必ず利用する」が43%、「おそらく利用する」(34%)まで含めると77%になる。
- 利用意向理由の自由回答をみると、「今後運転ができなくなる」や「送迎を頼める人がいない」「自立した暮らしがしたい」の回答が中心。また、「交通の便が悪いから」「“ぎゅっと”カーを使ってみたら便利だった」の意見も散見される。利用意向の理由では、ネガティブな意見よりも「気兼ねなく自由な移動」を求める意見が多く、利用目的に「老人会の会合」「食事」「飲み会」の回答があることから、免許返納後も生活の質を大きく落とさず暮らすことを求めていることがわかる。
- 今後の“ぎゅっと”カーでの外出目的は、「通院（介護・付添い含む）」の78%、「買い物」の63%が高く、「公共施設（役所など）の利用」（53%）、「銀行・郵便局」（48%）が続く。
年代別では、「50代以下」で仕事への利用ニーズがある。「70代前半」では、他の年代に比べ「モーニングやランチなどの食事」「知人宅への訪問」「カラオケやコンサート、イベントなどの遊び・娯楽」が高くなっている。“ぎゅっと”カーの利用別では、「5回以上」は「モーニングやランチなどの食事」「知人宅への訪問」「カラオケやコンサート、イベントなどの遊び・娯楽」が低い。
「通院(介護・付添い含む)」「買い物」以外の、お出かけニーズには、年代や普段の移動手段により異なる。

改善要望

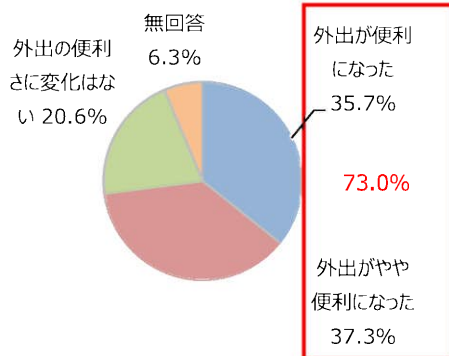
- 改善要望は、停留所に関することが上位を占め「行きたい先の停留所を増やす」（37%）「家から近い停留所の設定」（26%）。続いて「予約時間の見直し」「運行する時間帯の見直し」「行き帰り便時間通りの運行」が約20%で時間に関することになっている。
「片岡区」「北区」「利用経験者」からは、「行きたい先の停留所を増やす」についての改善要望が高い。「利用回数2～4回」「普段の移動手段が路線バス・高速バス・鉄道」は、「運賃の見直し」について改善を求めている。
- 自由回答の改善要望点をみると、「行き先／停留所を増やしてほしい」、「予約時間」や「支払方法」の拡張など、“ぎゅっと”カーの仕組みを見直してほしいという意見が挙げられた。行き先は、町外を増やし、牧之原市のほか、島田、藤枝、焼津市へのアクセス改善の要望が多い。
予約に関しては、利用者から、電話受付の時間を拡張し、土日も利用しやすくするよう改善を求める声が多い。停留所がわかりづらく、看板も見つけやすくしてほしいとの意見も散見された。

総括

利用者の“ぎゅっと”カー評価

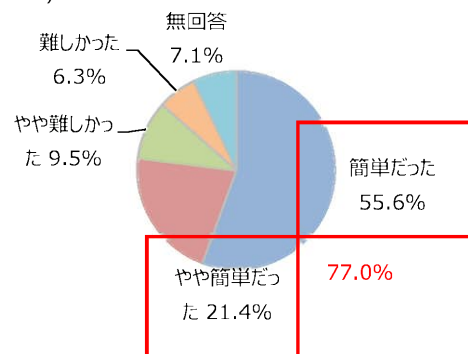
- “ぎゅっと”カー利用者の運行前後での行動・意識の変化をみると、「外出時の便利さ」は73%が改善されたと回答している。うち36%が最高評価の「外出が便利になった」と回答。
“ぎゅっと”カーの運行は、自家用車の保有がない人の移動環境の改善に大きく貢献している。

[Q21]“ぎゅっと”カーが運行する前と後で、あなたの“外出時の便利さ”は変わりましたか。(n=126)



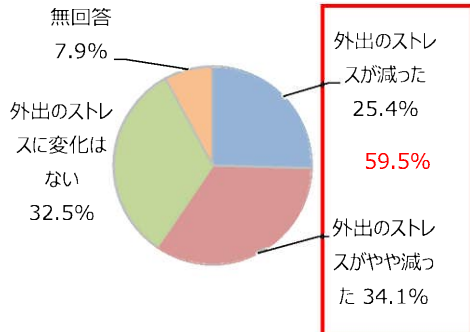
- 予約方法の評価は、「簡単だった」が56%、「やや簡単だった」(21%)まで含めると77%を占め高評価。
- 非利用者も含めた回答では、【予約方法】が主要な利用障壁の1つとなっているが、実際の利用者は簡単という評価が大半を占めており、利用者と非利用者では意識にギャップがある。

[Q27]あなたにとって、“ぎゅっと”カーの“予約”はいかがでしたか。(n=126)



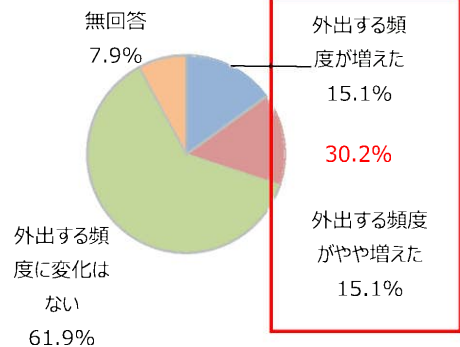
- “ぎゅっと”カーの運行開始前と比べ、「外出時のストレス」は、60%が改善されたと回答している。最高評価の「外出のストレスが減った」は26%。
“ぎゅっと”カーの運行が移動環境の改善に大きく貢献している。

[Q22]“ぎゅっと”カーが運行する前と後で、あなたの“外出時のストレス”は変わりましたか。(n=126)



- “ぎゅっと”カー運行開始前と比べ、「外出する頻度が増えた」のは30%。「自家用車なし」の人にその傾向が見られる。

[Q23]“ぎゅっと”カーが運行する前と後で、あなたの“外出をする頻度”は変わりましたか。(n=126)



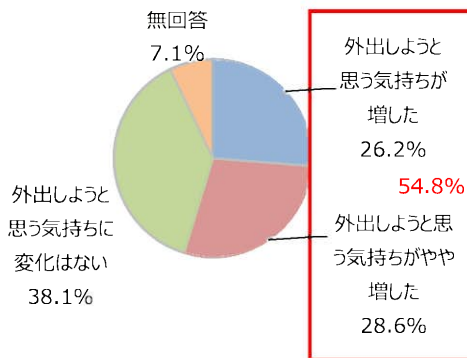
総括

利用者の“ぎゅっと”カー評価

- “ぎゅっと”カー利用前後での外出意向の変化をみると、**55%が「外出しようと思う気持ち」が増した**と回答。「自家用車なし」でこの傾向が顕著である。ここでも、“ぎゅっと”カーの運行が生活の質の向上に大きく貢献していることがわかる。

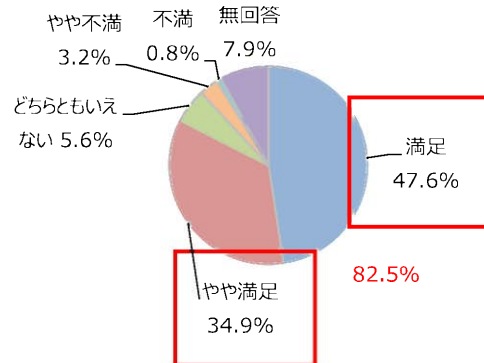
[Q24]“ぎゅっと”カーが運行する前と後で、あなたの“外出しようと思う気持ち”は変わりましたか。

(n=126)



- “ぎゅっと”カーの利用満足度については、「満足」「やや満足」を合わせて**83%**となっている。うち、最高評価の「満足」が**48%**となっている。

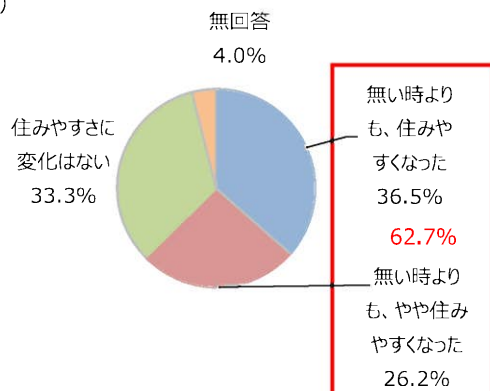
[Q28]あなたが、“ぎゅっと”カーを利用した“満足度”をお選び下さい。(n=126)



- “ぎゅっと”カー利用前後の吉田町の住みやすさの変化では、**63%が「吉田町の住みやすさ」が改善された**と回答。うち、最高評価の「無い時よりも、住みやすくなった」が37%となっており、“ぎゅっと”カーの運行が生活の質の向上に大きく貢献していることがわかる。

[Q25]“ぎゅっと”カーが運行する前と後で、あなたの“吉田町の住みやすさ”は変わりましたか。

(n=126)



令和 6 年 5 月 1 4 日
総合政策局地域交通課

地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援します！

～令和 6 年度「共創・MaaS 実証プロジェクト」の事業選定について～

地域の多様な関係者の「共創」により地域公共交通の「リ・デザイン」を進めるため、「共創・MaaS 実証プロジェクト」の公募を行いました。応募のあった事業については、有識者のご意見も踏まえて、地域交通の維持・活性化に取り組む「共創モデル実証運行事業」を 1 6 0 件、交通を軸として地域全体をコーディネートできる人材を育成する「モビリティ人材育成事業」を 5 7 件、選定いたしました。これらの取組等を支援するとともに、他地域において参考となるよう、横展開を図ってまいります。

1. 事業概要

令和 6 年度「共創・MaaS 実証プロジェクト」は、地域の多様な関係者が連携・協働した取組を通じて、地域交通の維持・活性化を図る事業を支援するものです。今回は、以下の①共創モデル実証運行事業、②モビリティ人材育成事業について、選定いたしました。

① 共創モデル実証運行事業

交通を地域の暮らしと一体として捉え、その維持・活性化を目的として、地域における複数の関係者の「共創」（連携・協働）による取組や「共創」を支える仕組みを構築する事業を対象とします。

② モビリティ人材育成事業

地域交通を軸とした共創の取組の促進・普及に向け、モビリティ人材（地域交通と他分野の連携を推進するコーディネート人材、地域交通のマネジメント人材、デジタル活用等により地域交通を支援する人材など）の育成・確保に関する仕組みの構築や運営を行う事業を対象とします。

2. 事業選定について

- 本年 2 月 2 7 日から 4 月 5 日にかけて公募を行い、①共創モデル実証運行事業は 1 6 0 件、②モビリティ人材育成事業は 5 7 件の事業を選定いたしました。（選定事業一覧は別紙参照）

- 国土交通省としては、選定事業における実証運行等を支援するとともに、ウェブサイトへの掲載等による積極的な周知・横展開を図ってまいります。

※ウェブサイトの URL：<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/kyousou/>

※ ①共創モデル実証運行事業及び②モビリティ人材育成事業については、5 月下旬以降に 2 次公募を予定しております。詳細は決定次第、別途ご連絡いたします。

【お問い合わせ先】

総合政策局地域交通課 山口、大橋、菊地

TEL：03-5253-8111（内線 54-724、54-817） 03-5253-8987（直通）

令和6年05月09日

吉田町地域公共交通協議会 御中

パシフィックコンサルタンツ株式会社
(押 印 省 略)

令和6年度 共創・MaaSモデル実証プロジェクト（共創モデル実証運行事業）に関する
採択結果について（通知）

令和6年度 共創・MaaSモデル実証プロジェクト（共創モデル実証運行事業）について、国土交通省において貴殿より応募のあった別紙記載の事業を採択することに決定した旨の通知がありましたので、交付規程第6条第3項の規定に基づき通知いたします。

なお、交付規程第6条第2項の規定に基づき、国土交通省において、補助対象経費、交付上限額及び附帯条件が、別紙のとおり定められておりますので、あわせて通知します。

公募要領に記載のとおり、本通知のみでは、補助金の交付を受けることはできず、補助金交付申請を行い、交付決定を受けてから事業開始する必要があることにご留意ください。交付申請等の方法については、別途ご連絡差し上げます。

本件についてのお問い合わせは、以下事務局までお願いいたします。

※ 別紙記載のとおり、国土交通省において令和6年5月14日（火）に採択結果の公表を予定していることから、本通知の受領後、本補助事業の活用を辞退する場合には、令和6年5月13日（月）14時までに必ず事務局に連絡すること。

【事務局】

パシフィックコンサルタンツ株式会社

E-mail : ccre_r06@ks.pacific-hojo.jp

T E L : 0 5 0 - 5 4 8 2 - 3 3 6 4

“ぎゅっと”カーよしの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の基礎情報

実施主体	吉田町地域公共交通協議会
事業実施地域	静岡県吉田町（主たる地域）・牧之原市
共創の類型	官民共創・交通事業者間共創・他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉・子ども・子育て・商業・農業
共創パートナー	吉田町（企画課、福祉課、子ども未来課）・有限会社平和タクシー・東海タクシー株式会社・しずてつジャストライン株式会社・株式会社アイシン CSSカンパニー・名古屋大学環境学研究所地域戦略研究室・株式会社イズハラ・ソリューションズ・社会福祉法人 吉田町社会福祉協議会・吉田町教育委員会・静岡県立榛原高等学校・吉田町商工会
運行形態	AIデマンド交通
運行主体	有限会社平和タクシー、東海タクシー株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

- 地域課題：吉田町の公共交通は、高速バス・路線バス・タクシーと、AIデマンド型乗合タクシー“ぎゅっと”カーよしの活用（以下、“ぎゅっと”カー）（R5年10月から実証実験開始）で担われている。しかし“ぎゅっと”カーは未だ認知や利用は限定的であり、バスについてはバス運転手の確保の難しさ、コロナ禍の影響などにより路線の減便や縮小が懸念されており、公共交通での“お出かけ”に対するストレスが高い状況にある。また、既存の路線バスだけでは町内を十分にカバーできていなかったため、住民の移動手段は自家用車の割合が高い。自家用車を保有しない高校生等子どもや高齢者の移動手段が少なく、高齢化の進展による交通事故リスクや交通弱者の住みにくさが増えることが危惧される。「まちづくりに関する住民意識調査」（2022年）の結果では住みにくい理由第1位に、いずれの年代でも「公共交通機関の便が悪い」が上っている。
- 事業目的：まちづくりと連携した面的な交通ネットワークを構築し、自家用車に頼らず、町内どこでも利用できる公共交通サービスを実現する。特に、子どもと高齢者が気軽に“お出かけ”できるまちをめざす。

（事業の概要）

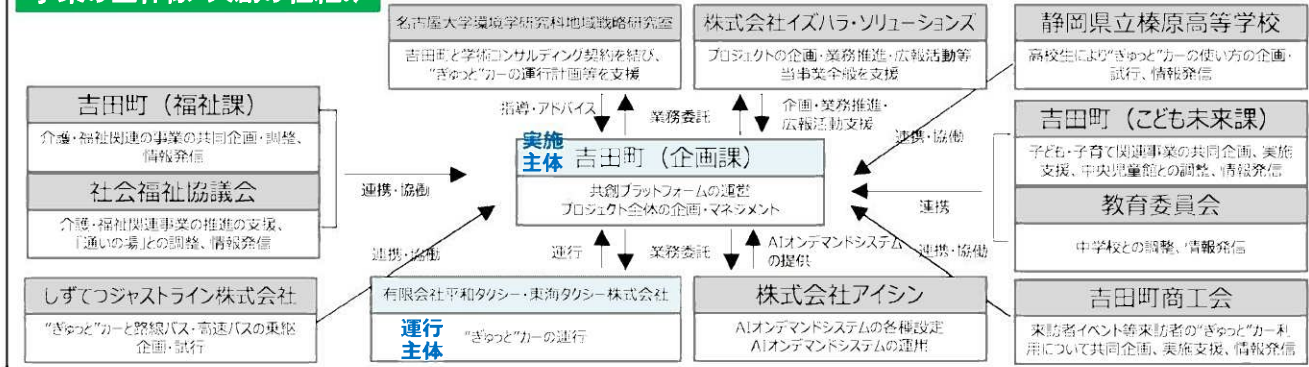
- ①吉田町（企画課、福祉課）、社会福祉協議会等が連携・協働し、“ぎゅっと”カーを高齢者の「通いの場」への移動手段として定着させる。また、高齢者のフレイル予防/お出かけ促進に、“ぎゅっと”カーを活用した「大人の遠足（仮）」などを企画し高齢者が“ぎゅっと”カーに慣れ、暮らしの中に取り入れる機会を創出し、日常の移動手段として利用できるようにしていく。
- ②吉田町（企画課、子ども未来課）、教育委員会、榛原高校等が連携し、高校生の通学や子どもの登校への移動の現状把握を行い、子どもの移動における“ぎゅっと”カーの効果的な活用方法を見出し、子供向けパンフレットを作成し周知と利用を促す。また、公民館イベント等の移動手段として利用する機会を設け、子どもとその家族が“ぎゅっと”カーに慣れ、暮らしの中に取り入れるきっかけづくりを行う。
- ③吉田町（企画課）、商工会等と連携・協働し、県営吉田公園で開催されるイベントで町外からの来訪者による“ぎゅっと”カー利用を企画し、テスト運行する。観光客など吉田町への来訪者の二次交通となるための課題を明確にし、商業や観光の活性化に貢献できる仕組みを検討する。
- ④吉田町（企画課）、タクシー事業者2社、しずてつジャストライン株式会社が連携し、“ぎゅっと”カーからバスへの乗継ぎを強化し、公共交通による吉田町から町外への移動のストレスを軽減する。

“ぎゅっと”カーよしの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

吉田町（企画課）が核となり、関係者の特性を生かした連携・協働を行う。“ぎゅっと”カーは、タクシー事業者2社が運行を行い、アイシンがAIデマンドシステムを設定・提供する。しずてつジャストラインは“ぎゅっと”カーとバスの乗継強化でのオペレーション検討や情報発信を担う。吉田町福祉課と社協は介護・福祉関連、吉田町子ども未来課と教育委員会は子ども関連、榛原高校は高校生による企画、商工会は町外からの来訪者イベント等、それぞれの得意分野で地域のリーダーや住民との調整や情報発信、企画のブラッシュアップを協働する。このように多方面と連携・協働することにより、公共交通とまちづくりとの関連性を高める。

（実証事業により見込まれる効果）

- ・高齢者の外出意欲と外出頻度の向上。評価）“ぎゅっと”カー利用前後の改善度がR5年度を上回る。
- ・子ども世代の“ぎゅっと”カーへの認知が拡大し、移動手段の1つとなる。評価）“ぎゅっと”カー利用前後で、今後の利用意向が生まれる。
- ・吉田町への来訪者の活動量が増え、地域への経済効果が期待できる。評価）来訪者イベントでの“ぎゅっと”カーの運行回数。
- ・“ぎゅっと”カーとバスの乗継により移動しやすくなり住みやすくなる。評価）“ぎゅっと”カーのバス定期券割引利用者数。

“ぎゅっと”カーよしの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

【凡例】 ■：補助対象期間 →：実施/試行：調査・企画・準備 ★：地域公共交通協議会の開催 翌2月以降、実証実験は自己負担で継続

	2024年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月	4月以降
全体		★	実証実験			★				★	実績報告 Report		
・吉田町（企画課） ・名古屋大学 ・イノカ・ソリューションズ	高校生・子どもの移動について調査		子ども／高齢者対象企画の実施	子ども／高校生／高齢者／来訪者イベントの企画、調整 （実行計画の見直し）（バス乗継強化等）			バス乗継強化策の試行	来訪者イベント の実施					
・タクシー事業者	サダンにて運行		シャトルにて運行		見直し後の試行テスト								
・しずてつジャストライン	バスへの乗継強化策の進め方検討		情報発信				バス乗継強化策の試行						
・ノイシン			デモンストラシステムの見直し、試行テスト										
・吉田町（福祉課） ・社協	高齢者対象企画の進め方検討		高齢者対象企画の実施	高齢者対象企画、実施、情報発信									
・吉田町（福祉課） ・教育委員会	高校生子どもの移動についての把握 子ども対象企画の進め方検討		子ども対象企画の実施	子ども対象企画、調整、情報発信									
・椋原高校	高校生の移動についての把握		高校生による企画案の進め方検討				企画立案、試行、情報発信						
・商工会			来訪者イベントの企画、調整	情報発信			来訪者イベント の実施						

令和7年度も実証実験の結果を踏まえ見直す。

(補助事業実施後の予定)

“ぎゅっと”カーは、吉田町地域公共交通計画（2022年3月策定）に位置づけられた取り組みであるため、この計画に沿って、令和7年度まで実証実験（21条申請）を行い、その結果を踏まえ令和8年度から本格運行（4条申請）の予定。
資金面では、吉田町財政計画に位置付け、運賃収入等と町負担をベースに、フィーダー系補助金等を活用し継続する。
また、子育て支援、高齢者のお出かけ支援の視点から今後は関係部署と、企画の連携・協働に加え費用分担についても検討していく予定。

吉田町地域公共交通計画

-だれもが気兼ねなく

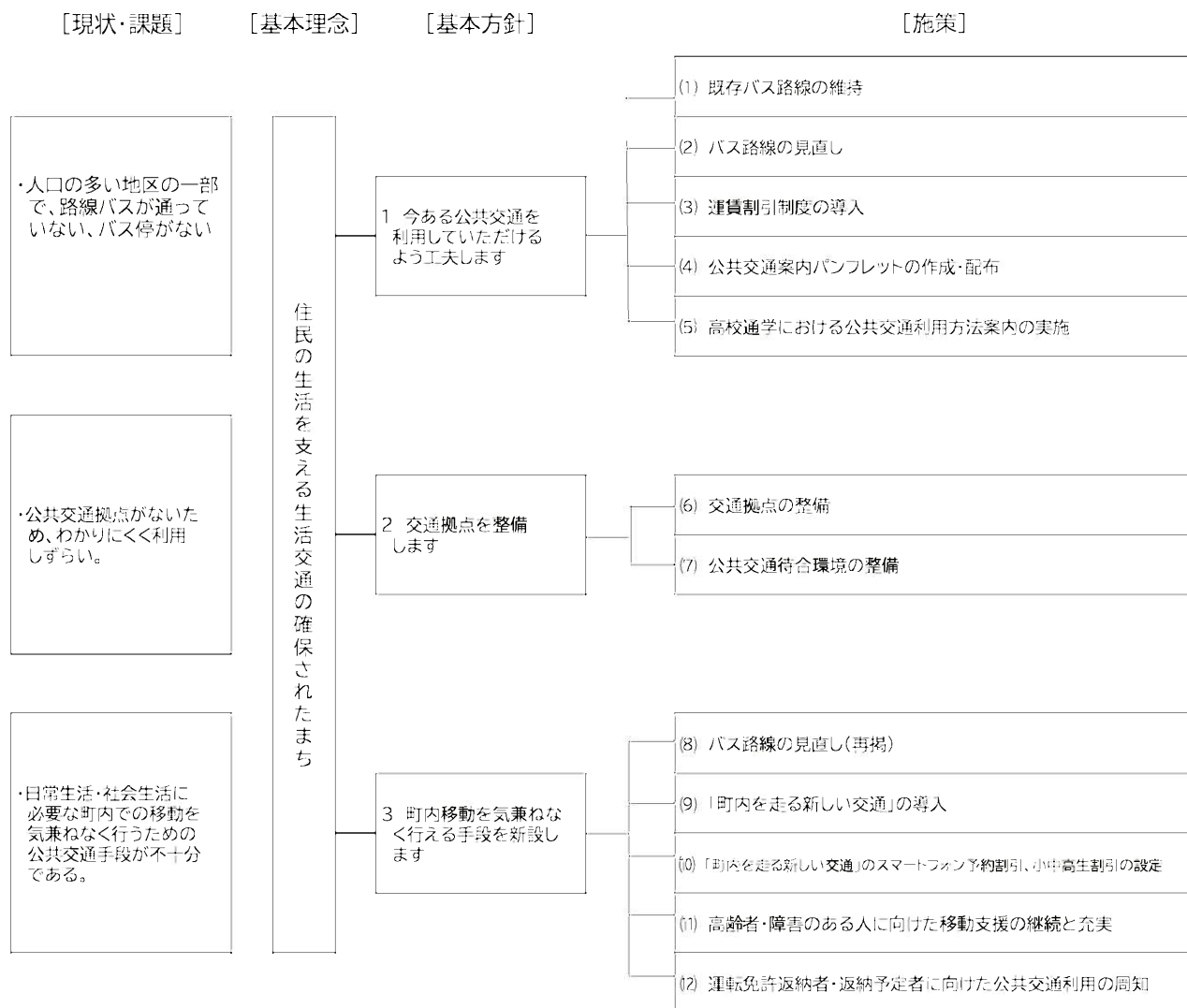
「おでかけ」できる町を目指して-

吉 田 町

策定：令和4年3月

改訂：令和6年1月

【施策体系図】



【基本方針2】交通拠点を整備します

(6) 交通拠点の整備

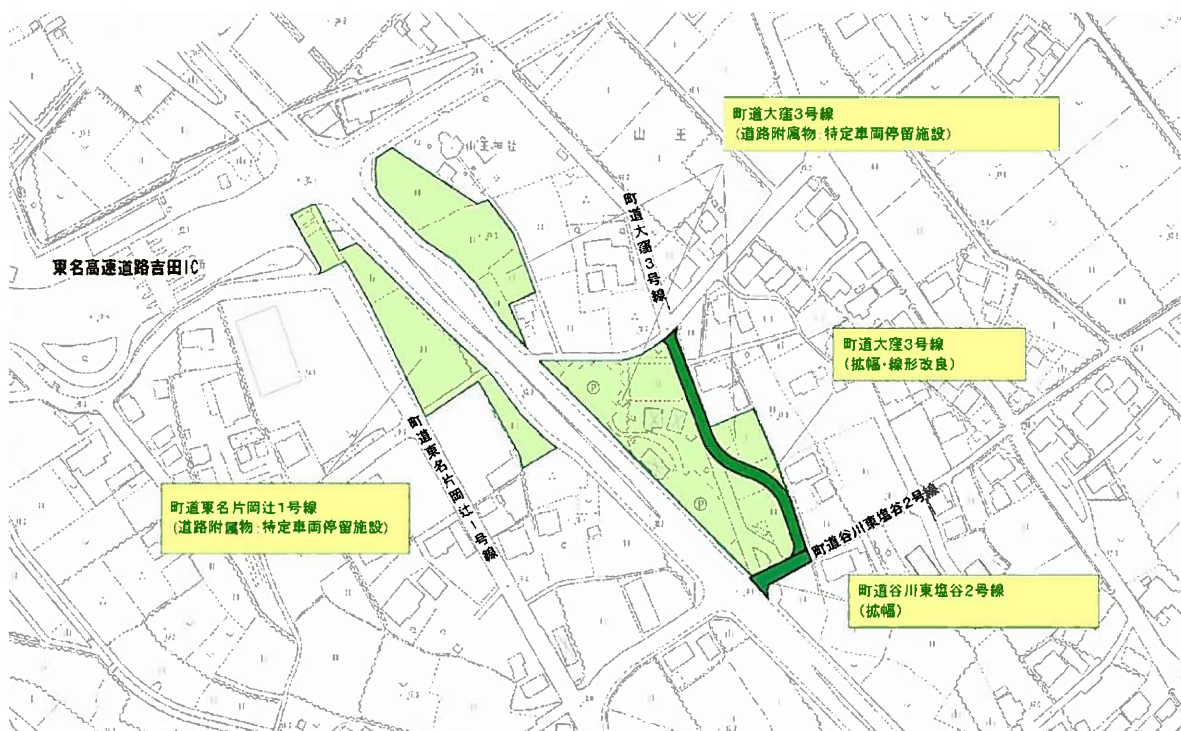
① 「吉田インター入口」バス停の交通拠点整備

町の玄関口として、高速バス・空港バス・路線バスや「町内を走る新しい交通」(9参照)が乗降でき、乗客が待ち合いできる施設を整備する。加えて、パーク&ライド※1駐車場、サイクル&ライド※2駐輪場、キス&ライド※3自家用車乗降場、トイレ、観光案内施設や店舗等の機能も有する拠点を整備し、ネットワーク性の向上を図る。

整備対象範囲は道路区域に指定し、町道大窪3号線、町道東名片岡辻1号線の特定車両停留施設としてバス拠点を整備する。併せて町道大窪3号線の拡幅および線形変更、町道谷川東塩谷2号線の拡幅を行うことにより、バスの円滑な走行動線を確保する。

- ※1 出発地から最寄りの交通拠点まで自動車を運転し、交通拠点周辺に駐車した後、公共交通機関で目的地まで移動すること。
- ※2 出発地から最寄りの交通拠点まで自転車で移動し、交通拠点周辺に駐輪した後、公共交通機関で目的地まで移動すること。
- ※3 出発地から最寄りの交通拠点まで自動車で送迎してもらい、そこから公共交通機関で目的地まで移動すること。

《整備イメージ》



＜実施主体＞

吉田町、静岡県、国、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、タクシー事業者、警察、道路管理者

吉田インターチェンジ周辺バスターミナルの整備について



構想イメージパース

令和 6 年度 吉田町地域公共交通協議会事業計画（案）

期 日	事 業 名	事 業 内 容
令和 6 年 5 月 28 日（火）	第 1 回協議会	【報告】 ・ 令和 5 年度事業報告・収支報告について ・ “ぎゅっと”カーよしだアンケート調査結果について ・ 共創・MaaSモデル実証プロジェクトの採択結果について ・ 吉田町地域公共交通計画の進捗について 【議事】 ・ 令和 6 年度事業計画・収支予算について ・ “ぎゅっと”カーよしだの取組みについて
令和 6 年 9 月下旬	第 2 回協議会	・ “ぎゅっと”カーよしだ利用実績について ・ “ぎゅっと”カーよしだ運行状況の評価、見直しについて ・ 令和 7 年度 “ぎゅっと”カーよしだ運行計画について
令和 7 年 1 月上旬	第 3 回協議会	・ 地域間幹線系統に関する事業評価について ・ 地域間幹線系統に係る国及び県補助路線協調補助について ・ “ぎゅっと”カーよしだ利用実績について ・ “ぎゅっと”カーよしだアンケート結果について ・ “ぎゅっと”カーよしだ運行状況の評価について

令和6年度 吉田町地域公共交通協議会 収支予算

単位：円

【収入の部】

款	項	目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	比較増減 (A－B)	備 考
1 負担金	1 負担金	1 負担金	560,000	560,000	0	町負担金
2 補助金	1 補助金	1 補助金	0	0	0	
3 繰越金	1 繰越金	1 繰越金	533,951	533,947	4	
4 諸収入	1 諸収入	1 諸収入	0	0	0	預金利息
			1,093,951	1,093,947	4	

単位：円

【支出の部】

款	項	目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	比較増減 (A－B)	備 考
1 運営費	1 会議費	1 会議費	250,000	250,000	0	委員謝金
	2 事務費	1 事務費	130,000	130,000	0	郵送料
2 事業費	1 事業費	1 事業費	713,951	713,947	4	
3 返還金	1 返還金	1 返還金	0	0	0	
4 予備費	1 予備費	1 予備費	0	0	0	
			1,093,951	1,093,947	4	

(科目間の流用を認める)

収入金額 1,093,951 円

支出金額 1,093,951 円

差引残額 0 円

“ぎゅっと”カーよしだ
実証実験
令和 6 年度 of 取組み

2024年5月28日

令和6年度の取り組み

■ 令和6年度の取り組みテーマ

“ぎゅっと”カーよしだの活用による
子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

■ 概要

①

高齢者の「通いの場」への移動
手段に“ぎゅっと”カーを活用

＜連携＞ 吉田町（企画課 福祉課）
社会福祉協議会等

②

子どもの移動における“ぎゅっと”
カーの効果的な活用方法の検討

＜連携＞ 吉田町（企画課 こども未来課）
教育委員会・榛原高校等

③

町外からの来訪者による
“ぎゅっと”カー利用の検討

＜連携＞ 吉田町（企画課）・商工会等

④

“ぎゅっと”カーからバスへの
乗継ぎの強化

＜連携＞ 吉田町（企画課）・タクシー事業者
しずてつジャストライン株式会社

令和6年度の取り組み内容①

① 高齢者の「通いの場」への移動手段に、“ぎゅっと”カーを活用

- “ぎゅっと”カーを高齢者の「通いの場」への移動手段として定着させます。
- 高齢者のフレイル予防/お出かけ促進に、“ぎゅっと”カーを活用した「大人の遠足（仮）」などを企画し、高齢者が“ぎゅっと”カーに慣れ、暮らしの中に取り入れる機会をつくり、日常の移動手段として利用できるようにしていきます。

令和6年度の取り組み内容②

② 子どもの移動における“ぎゅっと”カーの効果的な活用方法の検討

- 子どもの移動における“ぎゅっと”カーの効果的な活用方法を検討します。
- 高校生の通学等の移動の現状を把握します。
- 公民館イベント等の移動手段とし子どもとその家族が利用する機会を設けます。
- 子ども向けパンフレットを作成し周知と利用を促し、また、親子で“ぎゅっと”カーを利用し、暮らしの中に取り入れるきっかけづくりを行います。

令和 6 年度の取り組み内容③

③ 町外からの来訪者による“ぎゅっと”カー 利用の検討

- 町外からの来訪者が“ぎゅっと”カーを利用する機会を、県営吉田公園で開催されるイベントなどでつくり、実際にテスト運行します。
- 観光客など吉田町への来訪者の二次交通の機能を担う場合の課題を明確にし、商業や観光の活性化に貢献できるしくみを検討します。

令和 6 年度の取り組み内容④

④ “ぎゅっと”カー からバスへの乗継ぎの強化

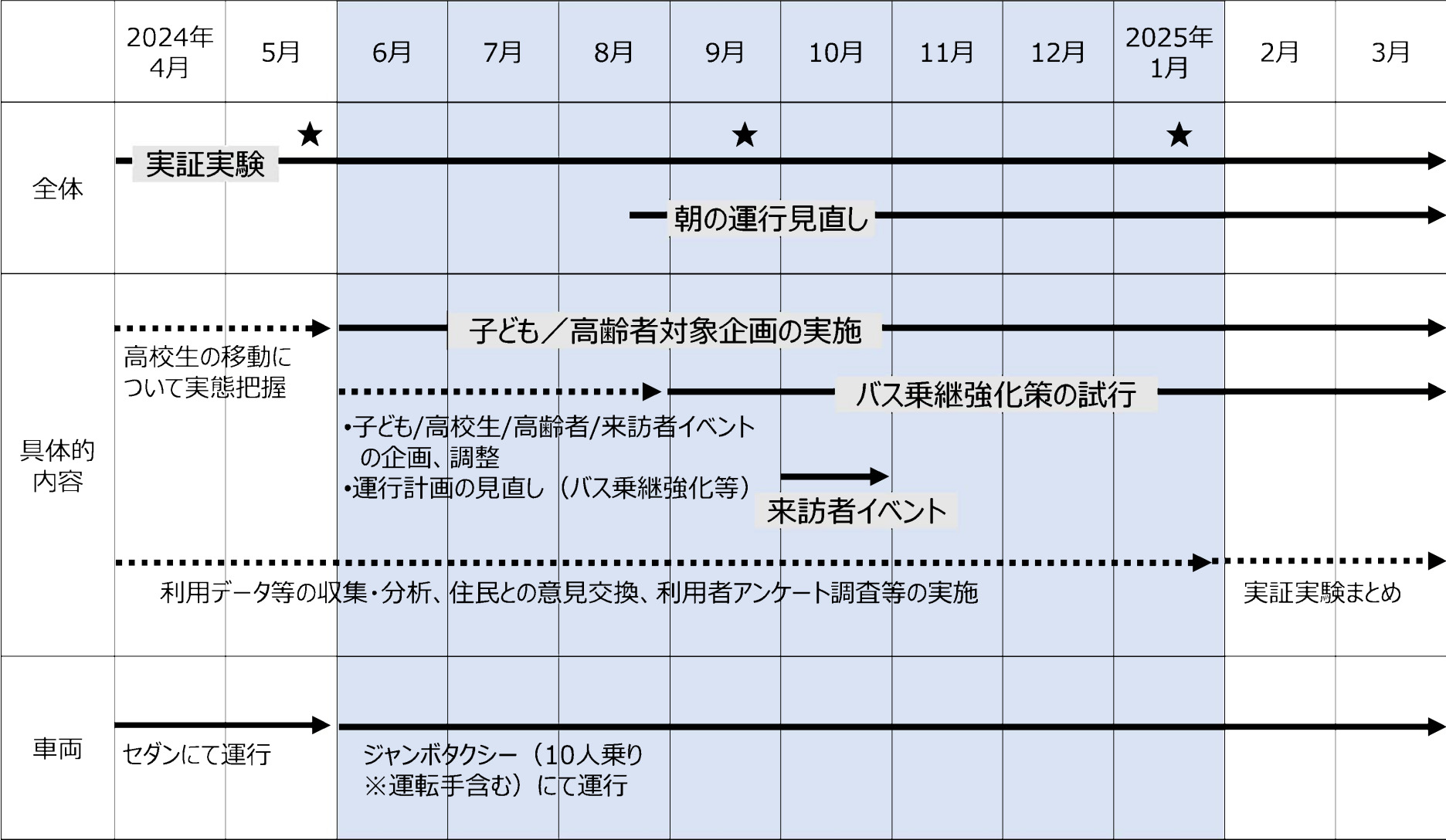
- “ぎゅっと”カーから路線バス／高速バスへの乗継ぎの利便性を良くし、（マイカーではなく）公共交通を使った場合の、吉田町から町外への移動のストレスの軽減に取り組みます。

実証実験により見込まれる効果

	内容	効果	評価
①	高齢者の「通いの場」への移動手段に“ぎゅっと”カーを活用	高齢者の外出意欲と外出頻度の向上	“ぎゅっと”カー利用前後の改善度がR5年度を上回る
②	子どもの移動における“ぎゅっと”カーの効果的な活用方法の検討	子ども・子育て世代の“ぎゅっと”カーへの認知が拡大し、移動手段の1つとなる	“ぎゅっと”カー利用前後の比較で、今後の利用意向が生まれる
③	町外からの来訪者による“ぎゅっと”カー利用の検討	吉田町への来訪者の活動量が増え、地域への経済効果が期待できる	来訪者イベントでの“ぎゅっと”カーの運行回数（利用ニーズの顕在化）
④	“ぎゅっと”カーからバスへの乗継ぎの強化	“ぎゅっと”カーとバスの乗継により移動しやすくなり住みやすくなる	バス定期券割引（乗り継いだ場合は“ぎゅっと”カー利用料金を割引）の利用回数（利用ニーズの顕在化）

事業実施スケジュール

【凡例】  : 実施／試行  : 調査・企画・準備 ★ : 地域公共交通協議会  : 国交省「共創モデル」補助対象期間



令和7年度も実証実験は継続する予定。
内容は、令和6年度の結果を踏まえ見直す。



バスにのって、でかけよう。



小学生バス 無料デー

小学生は
無料「0円」で
何回でものれ
るよ！

Happy Ride in Shizuoka Project



実施予定日 令和6年12月7日（土）～8日（日）

- ・期間中、静岡県内の小学生は無料で何度でも乗車できます。
- ・無料乗車エリアは、静岡県全域です。
- ・対象路線は特設サイトに掲載していきます（特設サイトは6月以降OPEN予定）
- ・各家庭にお知らせするリーフレットは、11月中旬頃に各学校にお送りします。



実施の目的

- ・小学生のバス利用を促進し、バス利用者数の向上を目指します。
- ・地域の足を支えるバスドライバーに「感謝とリスペクト」する気持ちを育むことで、地域公共交通を支える意識を醸成します。
- ・皆でバスに乗り合うことにより、CO2の削減を目指します。



山間地などまちから離れた場所に
住む人々の移動手段を守ります。



お年寄りや体が不自由な人の移動
手段を守ります。



バスは環境にもやさしい
乗り物です。

（CO2の排出量は自家用車の半分以下）

バスに乗ると、
こんなに
「**いいコト**」が
あるよ！

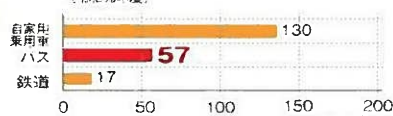


雨の日に道が混むのを和ら
げたり交通事故を減らす効
果があります。



地域の人と乗り合うことで
コミュニケーションが
生まれます。（運転手さんに
感謝の気持ちを伝えることも
大切です。）

【図E】輸送量当たりの二酸化炭素排出量（旅客）
（令和元年度）



国土交通省HP「環境運輸部門における二酸化炭素排出量」



主催 ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会

（国土交通省中部運輸局静岡運輸支局、静岡県、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者、市町）

（問い合わせ）静岡県交通基盤部地域交通課 054-221-3186

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project

～小学生バス無料デーの実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県地域交通課)

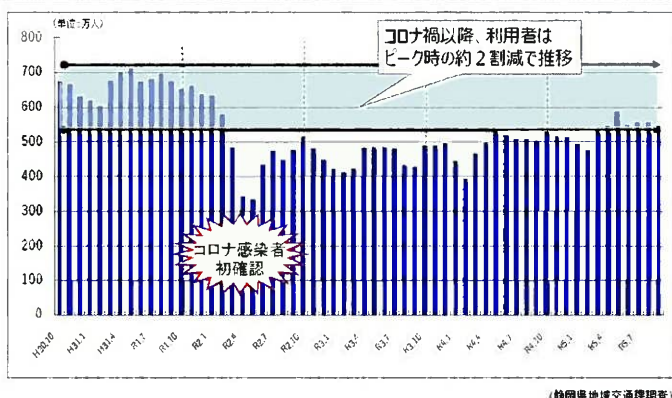
富国・有徳の理想郷ーしずおか
ふじのくに



背景

✓コロナ禍が拍車をかけた乗合バスの乗車人員の減少

✓運転手のなり手の不足、高齢化による更なる運転手不足への危機感



(一社) 地域公共交通総合研究所がR5.11に全国のバス事業者を対象に実施したアンケート回答者のうち、

全仕業に対して、**99%が運転手不足**と回答

運転手不足への対策として**回答事業者の半数が「減便」、約3割が「路線廃止」を計画**



富国・有徳の理想郷ーしずおか
ふじのくに



目的

- 小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- 地域の足を支える運転従事者に「感謝とリスペクト」する
気持ちを育み、将来にわたり社会全体で地域公共交通を支える意識を醸成
- 皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



富国有徳の理想郷ーしずおか
ふじのくに

2

実施概要(案)

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、
県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施する。
(全県規模の実施としては前例のない取組)

項目	内容
対象者	県内の全小学校 524校 約178,000名 (国公立・私立小学校、特別支援学校含む)
実施予定日	令和6年12月7日(土)～8日(日) 2日間
対象路線	県内乗合バス事業者路線(貸切、観光バスを除く) 市町自主バス路線(実施可能な市町)
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会(令和6年4月24日設置) 構成員: 国、県、市町、(一社) 静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局: 静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター

ふじのくに

3

【参考】費用と経済効果

※2023年11月にしずてつジャストラインが静岡市で実施したフリー乗車券の発行・配布した実績をもとに記載

項目	内容	詳細
費用	1,069,020円	(内訳) ・乗車券印刷代 537,600円 ・チラシ印刷代 (郵送料含む) 466,000円 ・乗車券郵送代 65,420円
効果	1,236,552円	フリー乗車券利用者の同伴者(大人)利用者数 ×定期外平均単価201円×往復として算出

静岡市内	
学校数	95校
児童数	31,751名

富国有徳の理想郷ーしずおか
ふじのくに

4

実施概要(スケジュール)

月日	内容
4月24日	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会の設立
5月中旬～	各学校に小学生バス無料デーの実施通知、校長会等での説明(県)
5月下旬～	市町地域交通会議等での説明(県)、運賃協議会での承認(市町)
6月～	実施路線の特定、特設サイトの開設、沿線の公的施設等への協力依頼
10～11月	各学校経由で小学生に無料デー啓発チラシ(兼フリーチケット)を発送 各種広報、啓発イベント等の実施、プレスリリース(11月中旬頃を予定)
12月7～8日	小学生バス無料デーの実施
～1月下旬	利用者アンケート等のとりまとめ(効果検証)

富国有徳の理想郷ーしずおか
ふじのくに

5